

旧石井家住宅主屋(北原白秋生誕地)

【国登録有形文化財(建造物)】

所在地 : 熊本県玉名郡南関町大字関外目字木屋塚 1 0 7 0 - 1

構造、形式及び大きさ : 木造一部二階建、瓦葺

建設年代/改修年代 : 江戸後期/明治 1 9 年改修、明治後期、昭和 3 0 年代

特徴等 : 北原白秋が生まれた住宅であるとともに、江戸時代後期の住宅らしい構造形式をもち、南関の有力者に相応しい住宅である。また、屋敷には白秋の短歌に詠われた玉蘭、門柱なども残されており貴重である。

旧石井家住宅の概要 ～石井家と北原白秋～

1. 石井家について

石井家の先祖は、大津山家六代資秋すけあきの家老石井下総と伝えられています。幕末に南関の旧家平井家から業隆なりたかが迎えられ、きぎとの間に、しけしげ、隆承りゅうしょう、貴道きどう、むつ、もり、武雄ぶしゅう、道真どうしんの四男三女をもうけました。業隆は、県会開設後第一回の議員であり、子の隆承、貴道、貴道の長男である了介りょうすけが南関町長を勤めるなど、石井家は南関地域の有力者であります。

2. 白秋の誕生 ー母の里なんかんー

明治 16 年 12 月 27 日、石井しけ(母)は、柳川の北原長太郎(父)に嫁ぎ、明治 18 年 1 月 25 日に長男隆吉(白秋)を南関町関外目にある実家出産し、1 ヶ月後に柳川(当時は山門郡沖端町)に帰り、出生を届出しています。白秋は幼少期にたびたび石井家を訪れ、蔵書家であった祖父業隆たちの書物に触れ、石井家の伯父たちに、猟、乗馬、水泳などを習い、南関の山のおいに接したことが、白秋の文学的素地をかもし出す要因となったといわれています。

3. 白秋が見た旧石井家住宅 ー天守造りの三層楼ー

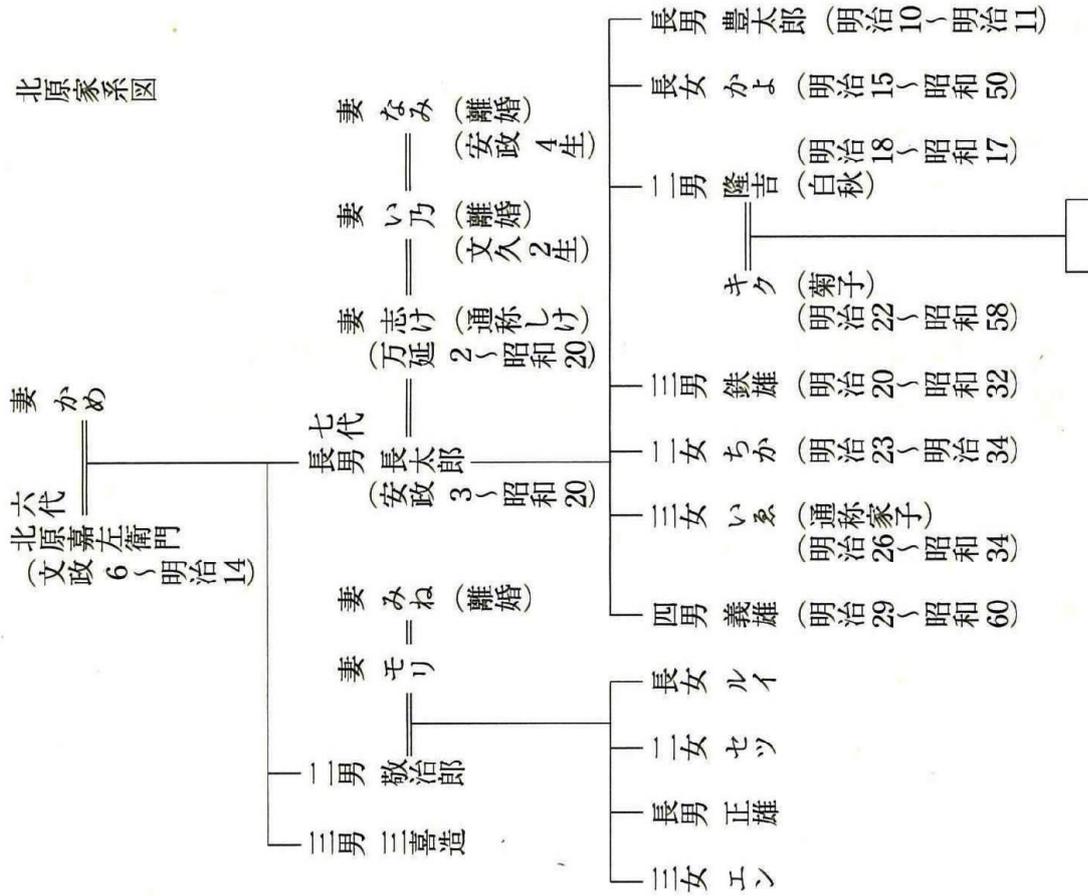
私の第二の故郷は肥後の南関であった。…たまたま旧道をゆく人の瞻仰の的となった天守造りの真白な三層楼があった。それが母の生れた家であって、数代この近郷の尊敬と素朴な農人の信望をあつめた石井家の邸宅であった。(白秋の『思い出』の「わが生いたち」より)

4. 白秋と石井了介 ー白秋詩歌版画シリーズー

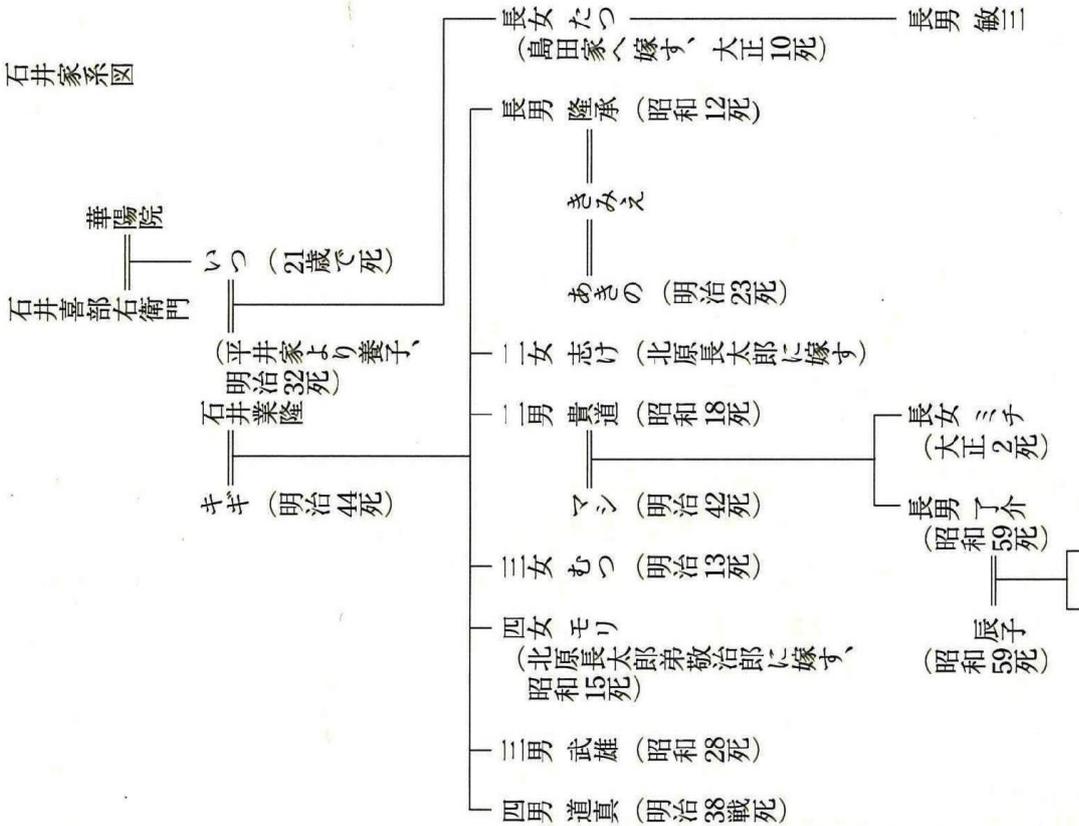
石井了介は、明治 31 年 7 月 25 日、貴道の長男として誕生しました。白秋は 13 歳年上の従兄にあたります。画家を目指して上京し、白秋とも親しい交流がありました。石井家の後継者として南関に帰郷し、南関町々会議員となり、画家と政治家の二足の草鞋の生活が始まります。昭和 32 年には日展に多色摺木版画「阿蘇の外輪山」が入選し、同 42 年から同 50 年まで南関町長を勤めました。町長画家として日展に連続入選し、白秋詩歌版画シリーズの制作を始めています。

昭和 53 年に、熊本県芸術功労者の称号が贈られ表彰、同 58 年には、白秋生誕 100 年を記念して『石井了介画集』が出版されました。白秋の南関に寄する詩情は版画によって相乗効果を奏し、白秋と南関の結びつきを如実に再現してくれます。

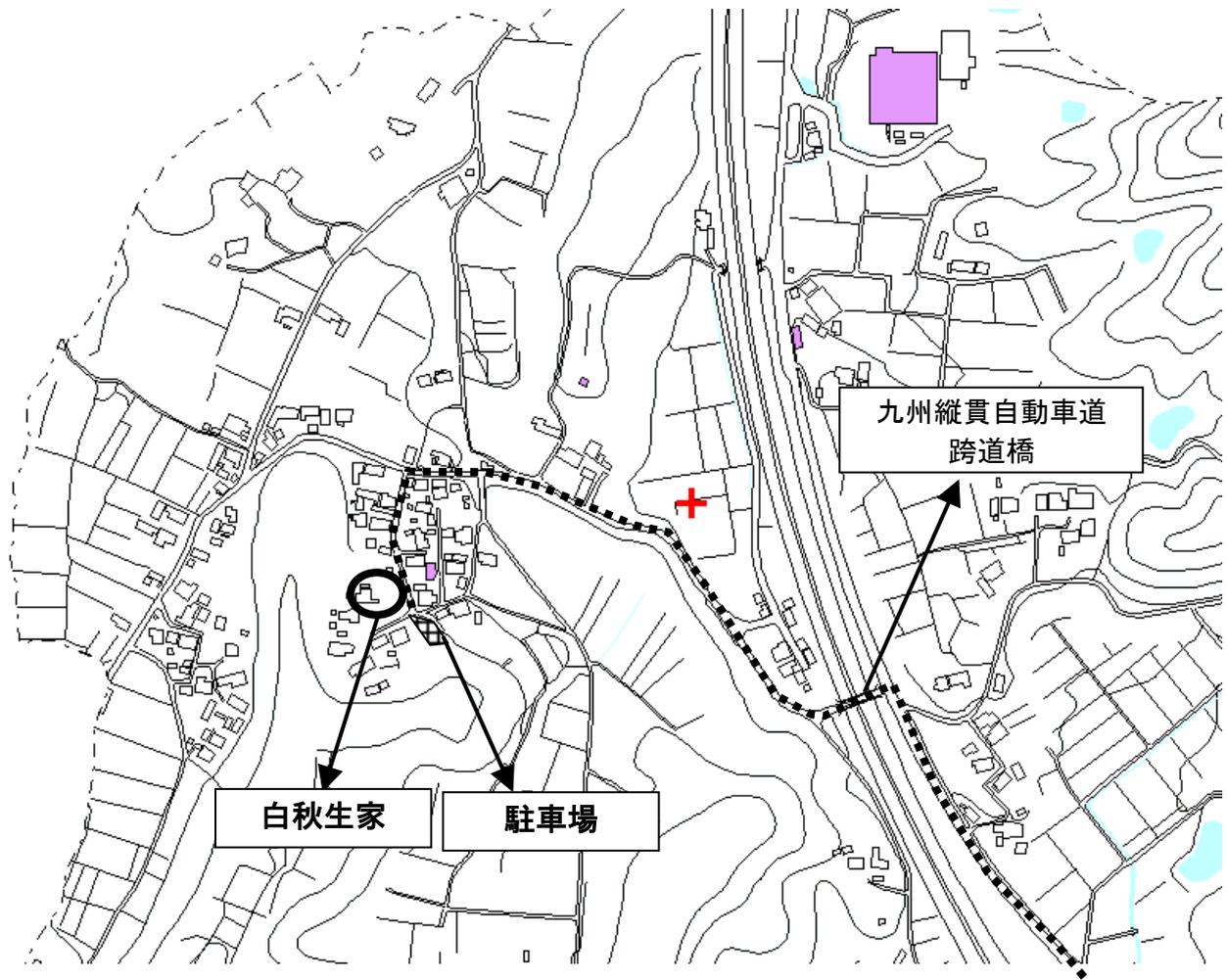
北原家系図



石井家系図

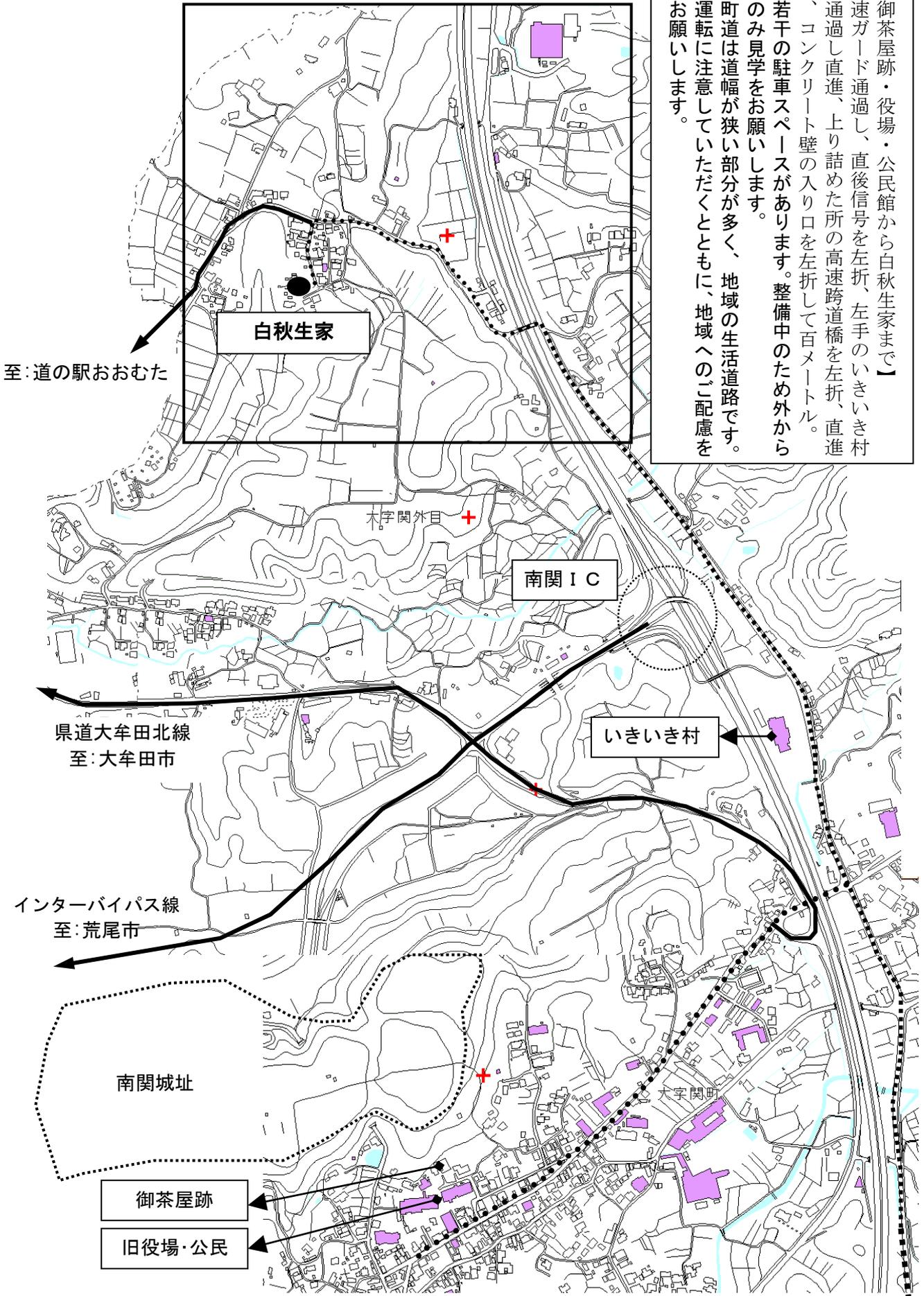


北原白秋生家 (旧石井家住宅)



白秋生家 (旧石井家住宅) 主屋 外観

【御茶屋跡・役場・公民館から白秋生家まで】
 高速ガード通過し、直後信号を左折、左手のいきいき村
 を通過し直進、上り詰めた所の高速跨道橋を左折、直進
 し、コンクリート壁の入り口を左折して百メートル。
 *若干の駐車スペースがあります。整備中のため外から
 のみ見学をお願いします。
 *町道は道幅が狭い部分が多く、地域の生活道路です。
 運転に注意していただくとともに、地域への配慮を
 お願いします。



至:道の駅おおむた

白秋生家

大字関外目

南関IC

いきいき村

県道大牟田北線
至:大牟田市

インターバイパス線
至:荒尾市

南関城址

御茶屋跡

旧役場・公民